

# 「現代の名工」に小泉勉さん

# 繊細・精緻 匠の技



16年度の卓越技能者（現代の名工）が24日、厚生労働省から発表された。本県からは木製建具製造工の小泉勉氏（71）＝陸前高田市気仙町＝が選ばれた。表彰式は25日、東京都港区の虎の門パストラル（東京農林年金会館）で行われる。小泉氏に、受賞に対する感想などを聞いた。

「なぜおれが名工か聞きたいくらい。県内には上の人がもつ」といる。これから願の良い弟子をたくさん育てるといふことだと思っている」と、現代の名工に選ばれた職人らしい、率直な感想が返ってきた。

中学校を卒業後、十六歳で、気仙大工。だった父（寅治さん）の弟子になった。当時の大工は建築だけでなく、建具や家具まで作った。機械のない時代で、すべて手づくり。昭和三十三年に独立し、木工所を設立した。

展示会を目標に精進したものを

## 木製建具工「組子屏風ひねり」第一人者

の、入賞できずに酒を飲んで八つ当たりしたこと度々だったが、建具職人として培ってきた知識と技能は、やがて成熟期を迎える。妥協せず、もうけを度外視して最高のものを作り、信頼も得た。

その特殊技能が全国の建具業界でも第一人者として知られる「組子屏風ひねり」の製作。屏風や衝立は遮断、開鎖の目的があるが、その機能を生かしながら空気を止めない新しい技術を考案した。

「酒を飲んでるときにヒントを得た。仕事としては単独で試行錯誤もあったが、屏風に取まった」と明かす。厚さ一センチ、幅一センチの杉材をひねって棧に組み込んだ屏風は方向によって見事な模様を見せる繊細、精緻な芸術品だ。

五年ほど前、六十五歳になって大病を患い、好きだった酒も節制するようになった。現在、苦勞をかけた妻の輝子さん（八十二）と二女夫婦、孫の六人家族。工場では四人の弟子を抱えているが、後継者も決まっているという。